

九州初記録のウミテング科魚類ヤリテング *Pegasus volitans*伊東正英¹・小枝圭太²・本村浩之²¹ 〒 879-1301 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦 718² 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

ウミテング科 Pegasidae は日本近海において、2 属 3 種が記録されており、このうちテングノオトシゴ *Pegasus laternarius* Cuvier, 1816 とヤリテング *Pegasus volitans* Linnaeus, 1758 の 2 種がテングノオトシゴ属に含まれる (瀬能, 2013)。ヤリテングは紅海を除くインド・西太平洋に広く分布し (Palsson and Pietsch, 1989)、国内においてはこれまで和歌山県田辺湾、高知県土佐湾、沖縄県西表島から報告されている (瀬能, 2013)。

2015 年 10 月 17 日に鹿児島県の南さつま市笠沙町片浦沖から、同年 12 月 9 日に肝属郡肝付町内之浦湾から、それぞれ 1 個体ずつのヤリテングが定置網により採集された。これらの標本は九州における本種の初めての記録となるため、ここに報告する。

■ 材料と方法

計数・計測方法は Palsson and Pietsch (1989) に従った。標準体長は体長と表記し、デジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位で計測した。ヤリテングの生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された鹿児島県産の 2 標本 (KAUM-I. 80552, 82782) のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報

告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM: the Kagoshima University Museum) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

■ 結果と考察

Pegasus volitans Linnaeus, 1758

ヤリテング (Figs. 1-2; Table 1)

標本 KAUM-I. 80552, 体長 68.2 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦崎ノ山東側 (31°25'44"N, 130°11'49"E), 水深 0-25 m, 2015 年 10 月 17 日, 定置網, 伊東正英; KAUM-I. 82782, 体長 67.2 mm, 鹿児島県肝属郡肝付町内之浦湾 (31°17'29"N, 131°06'59"E), 水深 0-40 m, 2015 年 12 月 9 日, 定置網, 小枝圭太・畑 晴陵・内藤大河・川内貴斗。

記載 鹿児島県産の調査標本 2 個体の計測形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は細長く、著しく縦扁する。吻部は棒状に著しく伸長し、先端はへら状で、側面は鋸歯状。吻部の背面および腹面には前後方向の細かい溝が無数に走る。口裂は小さく、伸長した吻部の付け根腹面に開く。眼はやや大きく、体高の 54.6-60.9%。眼を鱗が被わない。体は骨板で被われる。体側の骨板は星状に中心が膨らむが、背面の骨板には膨らみがない。体背縁は比較的円滑で、眼の直後に深い凹みがない。尾部は著しく細長い。第 9 尾輪より後方は硬く接続し、曲がらない。各尾輪の側面には後方または前後方向へ向く 1-2 棘がある。最終尾輪の背面に棘がないが、側面には強い 1 棘がある。背鰭および臀鰭の起部は第 2 尾輪に、基

Itou, M., K. Koeda and H. Motomura. 2016. First records of *Pegasus volitans* (Syngnathiformes: Pegasidae) from Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 42: 113-117.

☐ HM: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).



Fig. 1. Dorsal, lateral, and ventral views (top to bottom) of *Pegasus volitans*. KAUM-I. 80552, 68.2 mm standard length, off Kasasa, western Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan.

底後端は第4尾輪にそれぞれ位置する。背鰭の外縁は体軸に対して垂直に近い。胸鰭は大きく、水平に開くと半月型。胸鰭第5軟条は肥厚せず、他の軟条と同じ。腹鰭は腹位で、細長く左右に開いたのち、後方に曲がる。腹鰭は胸鰭より著しく後位。尾鰭は截形。

色彩 生鮮時の色彩—腹面を除く体と頭部の地色は薄茶色でまだらに暗褐色。腹部および尾部腹面は白色。躯幹部および尾部の背面には赤褐色の斑点が密集する。両唇および下顎部は白色。背鰭および尾鰭の軟条に赤褐色斑が連続し、薄赤褐色と薄茶色の縞模様となる。臀鰭は半透明。胸鰭は灰白色で赤褐色の小斑点が密在する。腹鰭は白色。

尾鰭鰭膜の後方半分は淡い茶色。

分布 紅海を除くインド・西太平洋に広く分布する (Palsson and Pietsch, 1989)。西太平洋ではインドネシア、シンガポール、タイ湾、フィリピン、南シナ海、台湾、および日本からの記録がある (Palsson and Pietsch, 1989; Matsunuma, 2013)。日本国内では沖縄県西表島、鹿児島県薩摩半島西岸・大隅半島東岸、高知県土佐湾、および和歌山県田辺湾の水深1.5–40 mから記録されている (Kamohara, 1952; 蒲原, 1960; 落合, 1965; 瀬能ほか, 1999; 瀬能, 2013; 本研究)。

備考 鹿児島県産の標本は、体背面が円滑で眼の直後に深い凹みがない、最終尾輪の両体側に後



Fig. 2. Dorsal, lateral, and ventral views (top to bottom) of *Pegasus volitans*. KAUM-I. 82782, 67.2 mm standard length, Uchinoura Bay, eastern Osumi Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan.

方へ向かう一対の棘があり、背面には棘がない、前鰓蓋骨の腹縁に1つの凹みがある、胸鰭第5軟条は肥厚せず他の軟条と同様、胸鰭基部の骨板数が4、眼が背側からでも見えることなどの特徴により Palsson and Pietsch (1989) や 瀬能 (2013)、

Osterhage et al. (2016) が示した *Pegasus volitans* の特徴と一致したため、本種と同定された。

本種の識別的特徴として、尾輪数が12であることが挙げられるが (Palsson and Pietsch, 1989 ; 瀬能, 2013 ; Osterhage et al., 2016), 本研究で報

Table 1. Counts and measurements of two specimens of *Pegasus volitans* from Kagoshima Prefecture, Japan.

| | KAUM-I. 80552 | KAUM-I. 82782 |
|--|---------------|---------------|
| Standard length (SL; mm) | 68.2 | 67.2 |
| Counts | | |
| Tail rings | 12 | 13 |
| Mobile tail rings | 9 | 9 |
| Dorso-lateral body plates | 4 | 4 |
| Ventro-lateral body plates | 5 | 5 |
| Dorsal-fin rays | 5 | 5 |
| Anal-fin rays | 5 | 5 |
| Pectoral-fin rays | 10 | 10 |
| Measurements (% of SL) | | |
| Body depth | 9.1 | 8.7 |
| Interpectoral width | 16.3 | 16.1 |
| Rostrum length | 25.0 | 27.2 |
| Rostrum width | 5.7 | 4.8 |
| Orbit diameter | 5.6 | 4.8 |
| Interorbital width | 4.9 | 4.9 |
| Carapace length | 40.5 | 35.7 |
| Carapace width | 16.7 | 15.6 |
| 10th tail-ring width | 3.8 | 3.9 |
| Length of the terminal tail ring spine | 4.9 | 4.3 |



Fig. 3. Dorsal view of *Eurypegasus draconis*. KAUM-I. 2974, male, 59.4 mm standard length, off Kasasa, western Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan.



Fig. 4. Dorsal view of *Pegasus laternarius*. KAUM-I. 420, female, 57.4 mm standard length, off Kasasa, western Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan.

告した標本のうち大隅半島東岸で得られた KAUM-I. 82782 の尾輪数は 13 であった (KAUM-I. 80552 は 12)。本報告においては、この違いを個体変異として扱った。また、薩摩半島西岸から得られた KAUM-I. 80552 は、棒状に伸長した吻部が眼と吻端の中央より後方では腹側へ曲がり、それより前方では体軸と水平に伸びていた。これは奇形、もしくはなんらかの損傷により変形したものと考えられる。

Pegasus volitans は、オーストラリア産の標本に基づき記載された *P. tetrabelos* Osterhage, Pogonoski, Appleyard and White 2016 と形態が類似するが、最終尾輪棘が 1 対で、その長さが体長の 4.3–4.9% [Osterhage et al. (2016) の *P. tetrabelos* では 2 対で 1.9–3.0%], 前鰓蓋骨の腹縁に凹みが 1

つ (2 つ), 第 10 尾輪以降の尾輪間に溝がある (第 9 尾輪以降), および胸鰭第 5 軟条が肥厚せず他の軟条と同じ (第 5 軟条が肥厚する) などの特徴により区別される。

ヤリテングは、国内ではこれまで和歌山県および高知県、沖縄県からのみ記録されていた。したがって、鹿児島県の 2 か所から得られた記載標本は、ヤリテングの鹿児島県および九州からの初記録となるとともに、国内における分布の空白域を埋めるものである。

本研究の標本 (ヤリテング: KAUM-I. 80552) が採集された定置網 (鹿児島県南さつま市笠沙町片浦崎ノ山東側) からは、これまでに国内に分布するウミテング科魚類 3 種のうち、本種を除く 2 種、ウミテング *Eurypegasus draconis* (Linnaeus, 1766) とテングノオトシゴ *Pegasus laternarius* の標本も得られており、鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されている [ウミテング 3 個体: KAUM-I. 2974, 体長 59.4 mm, 雄 (Fig. 3); KAUM-I. 31094, 体長 37.4 mm, 雌; KAUM-I. 38839, 体長 58.5 mm, 雄; テングノオトシゴ 1 個体: KAUM-I. 420, 体長 57.4 mm, 雌 (Fig. 4)]. このように本地点からは日本産のウミテング科全種が採集されている。この定置網が設置されている場所の海底は砂泥地であることから、ウミテング科魚類に適した生息地なのであろう。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、標本の採集に際して高知大学の内藤大河氏および川内貴斗氏、鹿児島大学の畑 晴陵氏、ならびに丸世大吉漁業生産組合、笠沙町漁業協同組合、内之浦漁業協同組合の皆様にご多大なご協力を頂いた。また、鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室と原口百合子氏をはじめとする同博物館ボランティアの皆様には適切な助言を頂いた。以上の方々にご感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 研究奨励費 (PD: 26-477), JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027,

26450265), JSPS 研究拠点形成事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」, 総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- 荒賀忠一. 1984. ヤリテング. P. 89, pl. 77. 益田 一, 尼岡邦夫, 荒賀忠一, 上野輝彌, 吉野哲夫 (編). 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会. 東京.
- 蒲原稔治. 1960. 高知県沖ノ島及びその付近の沿岸魚類. 高知大学学術研究報告 9 (自然科学 I), (3): 15–30.
- Matsunuma, M. 2013. *Pegasus volitans*. P. 69, in Yoshida, T., Motomura, H., Musikasinthorn, P. and Matsuura, K. eds. Fishes of northern Gulf of Thailand. National Museum of Nature and Science, Tsukuba, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, and Kagoshima University Museum, Kagoshima.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館. 鹿児島市. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 落合 明. 1965. ヤリテング. P. 510. 岡田 要・内田清之助・内田 亨 (監). 新日本動物図鑑 (下). 北隆館. 東京.
- Osterhage, D., Pogonoski, J. J., Appleyard, S. A. and White, W. T. 2016. Integrated taxonomy reveals hidden diversity in northern Australian fishes: A new species of seamoth (genus *Pegasus*). PLoS ONE, 11 (3): e0149415. doi:10.1371/journal.pone.0149415
- Palsson, W. A. and Pietsch, T. W. 1989. Revision of the acanthopterygian fish family Pegasidae (order Gasterosteiformes). Indo-Pacific Fishes, 18: 1–38, pl. 1.
- 瀬能 宏. 2013. ウミテング科. Pp. 608, 1906. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会. 奏野.
- 瀬能 宏, 内野啓道, 雪岡良彰. 1999. ヤリテング. I. O. P. Diving News, 10 (10): 1.